

評価項目	評価	コメント
<p>1. 意識改革と組織体制の充実</p> <p>(1)借受希望者を訪問し営農計画を聴取する、集落に入り事業説明を行う、担い手農業者などと定期的に意見交換を行うなど機構から働きかけを行ったか。</p>	<p>A</p> <p>ⓑ</p> <p>C</p>	<p>コロナウイルス感染症対策により借受希望者への訪問や集落に入ることが難しく、接触機会が減少又は取組が出来なかったためB評価とする。ただし、工夫して継続的に取組を行っていることは評価する。登録農地の現地見学会の開催を要望する。</p>
<p>(2)現地で取り組む職員(現地推進役、集積コーディネーター)体制を充実させるとともに、研修などでスキルアップを図ることができたか。</p>	<p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>現地推進役及び集積コーディネーターの配置による取組体制の充実、地区連絡会議との連携や定期的な会議での情報共有や研修会で着実にスキルアップを図るなど十分評価できる。</p>
<p>2. 話し合いの促進による出し手の掘起こし</p> <p>(1)府・市町村と連携し、京力農場プランの作成・見直しの中で、農地をまとめて機構に預けるよう集落に対し働きかけるなど農地の出し手の掘起こしを行ったか。</p>	<p>A</p> <p>ⓑ</p> <p>C</p>	<p>様々な取組を行っているが、集積目標面積1,000haに対し、集積面積は300haに達せずB評価とする。目標達成に向け、更に工夫した強力な取組が必要。</p>
<p>3. 機構のPRと農地所有者への喚起</p> <p>(1)機構は知事が指定した公的機関であり、責任を持って農地を管理し、使用料は確実に支払うなど事業のメリットを農地所有者に訴える取組みを行ったか。</p>	<p>A</p> <p>ⓑ</p> <p>C</p>	<p>コロナウイルス感染症により定期刊行物の発行やイベントが中止となり制度周知の機会を失うなどしたが可能な範囲で着実に取組を行った。新たなツールによるPR活動など工夫した取組が必要。</p>
<p>4. 他事業・機関との連携</p> <p>(1)集落の状況を踏まえ、中間管理事業と機構関連農地整備事業や農地耕作条件改善事業などを併せて実施するなど課題解決につながる提案をするため、他事業所管部局と連携して取り組むことができたか。</p>	<p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>機構関連事業の要望地区が増加するなど関係機関との連携の成果が出ておりA評価とする。京都府が3年度から実施の集落連携100ha農場づくり事業と連携し、大幅な掘起こしを期待。</p>
<p>5. 令和3年度取組み</p> <p>(1)2年度取組み結果を踏まえた上で、3年度取組み方針を策定することができたか。</p>	<p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>令和2年度取組結果を踏まえ、課題を注出し、改善に向け、3年度の方針が策定されている。</p>
<p>総合評価</p>	<p>A</p> <p>ⓑ</p> <p>C</p>	<p>集積目標面積1,000haに対し、300haの集積と目標達成できておらずB評価とする。事業制度周知の取組や京力農場プランの作成を通じて集落での話し合いの成果が出つつあり、事業の取組が大きく伸びることを期待する。</p>

A: 目標を達成している

B: 目標を概ね達成している

C: 目標どおり出来ていない